

掲示板 1

生物多様性カフェ

平成27年度前期予定

無料

日時・テーマ・話題提供者	メッセージ	申込締切
6月11日(木) 19時～20時30分 ようかいたちのいるところ ～里と人といきものと～ (公財)日本野鳥の会レンジャー 豊田市自然観察の森 担当 小池 彩さん	あなたは妖怪に出会ったことはありますか？ 妖怪というのは、ごく最近まで私たちの身近な存在でした。人をだます狸や狐、貉(むじな)に猫(まみ)、宮中さえも騒がせたという鰐(ぬえ)。たくさんいたはずの彼らはどこかへいってしまったのか、それとも…。里山で仕事をしていると、子どもたちに「この森に妖怪はいますか?」と訊かれることがあります。里山から街へ、妖怪と人間の、小さな橋渡しをしてみたいと思います。	5月28日(木)
7月16日(木) 19時～20時30分 世界の生物多様性の現状を考えてみよう 名古屋工業大学准教授 増田 理子さん	現在、色々な視点から日本の生物多様性について論じられてきました。ではもっと大きな視点から見た場合、地球上の生物はどのような状態になるのでしょうか? 大きな視点から生物多様性を考えるために、生物の進化や世界的な生物多様性の現状について考えます。大陸の移動や超大陸の存在がこれまでの生物多様性にどのように影響してきたかなどについてご紹介します。	7月2日(木)

会場 会場: なごや生物多様性センター(天白区元八事5-230) **定員** 各40名

申込方法 ①参加希望のテーマを明記し、②氏名、③郵便番号・住所、④電話番号を書き、Eメール、FAXまたはハガキで「なごや生物多様性センター」までお送りください。定員を超えた場合は抽選です(「参加票」は締切日以降に発送します)。定員に満たない場合は継続募集しますので、お問い合わせください。

平成26年度 主な行事の実績

なごや生物多様性保全活動協議会の主催行事は【協議会】と表記「於」がない行事の開催場所は、なごや生物多様性センター

- 通年**
- 市民協働による調査保全活動【協議会】 於: 市内各所
 - スキルアップ講座(アライグマ標本作製、ヤゴ同定講座、浮島型カメ農作製実習会)【協議会】
 - 定例会(学びあう会) 毎月第1水曜日開催(全12回)【協議会】
 - なごやエコスクール出前講座(全5校) 於: 市内学校又はなごや生物多様性センター
- 2014**
- 4月**
- ムシヤクロツバメシジミ駆除大作戦【協議会】 於: 新川河川敷(西区) 4/5
 - 第11回生物多様性カフェ～ボルネオ島のカエルからみた生物多様性～ 4/10
- 5月**
- なごや生物多様性センターまつり(生物多様性カフェ同日開催) 53団体出展、来場者2,100人 5/10
 - 第12回生物多様性カフェ～モンゴルで恐竜を掘ってみた～ 5/10
 - 第13回生物多様性カフェ～シデコブシ・ハナノキ・ヒツツバタゴの自然史～ 5/10
 - 第14回生物多様性カフェ～ペーパークラフトに挑戦～ 5/10
 - 第15回生物多様性カフェ～身近な自然を体験～ 5/10
- 6月**
- 環境デーなごや地域行事出展 於: 天白区役所 6/7
 - 第16回生物多様性カフェ～環境問題への取り組みは未来への願い～ 6/12
- 7月**
- なごや生きものの一斉調査2014～アメリカザリガニ編～【協議会】 於: 市内20地点 7/19～21
- 8月**
- なごや生物多様性サマースクール2014(7講座)【協議会】 於: 市内各所 8/1～16
 - 名古屋城生きもの調べ2014の調査開始【協議会・センター】 於: 名古屋城とその周辺 8月～2015年3月
- 9月**
- 第17回生物多様性カフェ～里山の自然と保全活動について今日的意義を考える～ 9/11
 - 環境デーなごや中央行事出展 於: 久屋大通公園(中区) 9/13
- 10月**
- COP12関連会合・URBIO2014で協議会の取組を報告【協議会】 於: 韓国・仁川 10/11
 - COP12関連会合・生物多様性国際自治体会議で名古屋市の取組を報告 於: 韓国・平昌 10/14
 - 第18回生物多様性カフェ～名古屋城外堀のオニバス～ 於: 名古屋城茶席 10/19
- 11月**
- ESD世界会議併催イベント出展 於: 久屋大通公園(中区)、国際会議場(熱田区) 11/8～12
 - 第19回生物多様性カフェ～藤前干潟の小さな生き物たちとその暮らし～ 11/15
- 2015**
- 2月**
- なごや生きもの報告会～調査・保全活動について～【協議会】 於: 中区役所ホール 2/1
 - 機関誌「なごやの生物多様性」第2巻発行
 - 希少種シンポジウム2015～次代に引き継ぐなごやの貴重な生きものたち～ 於: 鯉城ホール(中区) 2/28
- 3月**
- 名古屋市版レッドリスト2015公表(予定)



活動紹介

荒池ふるさとクラブ ～生物多様性を保全し自然との共生を目指します～

荒池緑地は天白区の東部に位置する緑地で、昭和33年に都市計画緑地に決定されました。緑地の中央部には、昭和40年に名古屋市農業センターが開設されましたが、周囲の緑地は未整備でした。

平成14年に名古屋市と地域住民との協働により「荒池なごやかファーム構想」が策定され、荒池緑地周辺の開発が始まる以前の里山風景の復元に向けた取組が着手されました。復元のための市民サポーターとして、平成16年3月に「荒池ふるさとクラブ」が設立しました。当クラブは、名古屋市の「荒池なごやかファーム構想」の趣旨に賛同し、荒池緑地を次世代に引き継ぎ、生物多様性を保全し、自然との共生を目指すことを活動目的としています。

活動内容は、荒池なごやかファーム構想の将来像である「ふるさと村づくり」に向けて、里山風景の復元を目指し、自然を学び、自然と共存し、ものづくりに参加・体験し、自らが楽しめる活動を行っています。

主な活動は、自然観察調査(植物、昆虫、野鳥など)、緑地の維持整備(竹林/雑木林)、水田の稲作や畑の耕作、果樹栽培、廃材を利用したクラフト、炭焼きなどを行っています。定例活動は、第1土曜日が運営委員会、第2土曜日・第3土曜日・第4土曜日が作業や調査・観察会等の活動日です。活動の時間は午前10時～午後3時です。ともに自然と触れ合い、学び、楽しみながら、私たちの活動に参加いただける方をお待ちしています。参加ご希望の方は、定例活動日の朝10時までに名古屋市農業センター指導館ロビーまでお越しください。(代表 熊岡 篤志)

〈ホームページ〉「荒池ふるさとクラブ」検索

<http://www.geocities.jp/arakefurusato/index.html>



昆虫生息調査

荒池ふるさとクラブ平成27年度活動計画 ※青字は、調査・観察会

【第2土曜日】	【第3日曜日】
4月 植物観察会／緑地の整備	緑地の整備／芋畑の整備
5月 総会／田植えの準備(代かき)	田植え／さつま芋植付け
6月 竹林の整備	竹工作／緑地の整備
7月 水辺の生きもの調査	昆虫生息調査
8月 安全講習会／クラブ懇談会	案山子作り
9月 ハザの準／緑地の整備	稲刈り
10月 稲刈り／脱穀	脱穀／糲摺り
11月 芋掘り／緑地の整備	二つ池エリアの整備
12月 ミニ門松・しめ縄作り	収穫祭
1月 野鳥観察と菜摘の整備／炭焼き準備	緑地の整備
2月 緑地の整備／炭焼き	緑地の整備／炭焼き準備
3月 二つ池エリアの整備／炭焼き	道具の手入れ／緑地の整備

※第4土曜日も定例活動日ですが、活動内容は当日に決定します。(第2土曜日、第3日曜日の活動を補填する活動を行います。)

掲示板 2

機関誌「なごやの生物多様性」第2巻発行

なごや生物多様性センターでは、地域で実践されている調査・保全活動等によって得られた、なごやの生物多様性に関する情報を、正確に記録し広く発信するため機関誌を発行しています。

第2巻となる本巻も、金城台(守山区)をテーマにした原著論文、アメリカザリガニの一斉調査からみえたため池・河川の現状の報告、名古屋城と東山の過去の蜻蛉(とんぼ)の記録など市民・専門家・研究者から貴重な情報が多数投稿され、掲載されています。ウェブサイトや市内の図書館でご覧になれます。はじめからお読みいただいても、関心のあるところだけ読んでいただいても結構です。本誌が今後の皆さまの調査や研究の重要な資料となり、紙面による有益な情報交換の場となれば幸いです。



第3巻投稿募集

平成27年度発行予定の第3巻の投稿を募集します。投稿資格はありません。市民、保全団体、専門家、行政に所属している方等、ひろく投稿者を求めます。また、内容や投稿区分についても、学術的知見を記した原著論文、調査や保全活動で得られた結果等を記した記録、報告および生物目録など、幅広い内容の文章を募っています。投稿規程をお読みいただき、「名古屋市および関係する地域における生物多様性」に関する情報は是非投稿ください。投稿期限: 平成27年8月31日(月)

ウェブサイト: <http://www.kankyo-net.city.nagoya.jp/biodiversity/>

「市民生きもの調査員」に登録しませんか?

生物調査や講習会、イベントなどの実施情報を直接メールでお届けします。どなたでも登録できます。詳しくはウェブサイトで!

問い合わせ・申し込み先

発行: 名古屋市環境局なごや生物多様性センター

住所 〒468-0066 名古屋市天白区元八事五丁目230番地
(地下鉄塩釜口駅2番または3番出口から徒歩5分)

電話 052-831-8104(平日 8:45～17:30) FAX 052-839-1695

E-mail bdnagoya@kankyokyouku.city.nagoya.lg.jp

なごや生物多様性センターウェブサイト

<http://www.kankyo-net.city.nagoya.jp/biodiversity>

なごや生物多様性センター Facebookページ(どなたでもご覧いただけます)

<https://www.facebook.com/bdnagoya>

名古屋市公式ウェブサイト

<http://www.city.nagoya.jp/>

なごや生物多様性センター 検索

なごや生物多様性保全活動協議会 <http://www.bdnagoya.jp>



なごや生物多様性センター

生きものシンフォニー

いのちかがやくなごや

14号

平成27年3月

改訂直前特集 名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物

名古屋市の改訂版レッドリストとレッドデータブックが2015年春に公表されます。この改訂版作成のため、市内の動植物の生息・生育実態について調査を行いました。調査の結果明らかになった、名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物について、その一部をご紹介します。



ユビアカベンケイガニ



トビハゼ



デンロハリゲコモリグモ



オオケマイマイ



アカネズミ



ナラビオカミミガイ



イボミスゴケ

CONTENTS

特集

改訂直前特集
名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 P1～3

TOPIC なごや生物多様性保全活動協議会
平成26年度 なごや生きもの報告会 ～調査・保全活動について～ P4
掲示板1 生物多様性カフェ 平成27年度前期予定、平成26年度 主な行事の実績 P5
掲示板2 機関誌「なごやの生物多様性」第2巻発行と第3巻投稿募集 P6
活動紹介 荒池ふるさとクラブ P6

名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物

名古屋市には、東部の丘陵地域や河川敷、大規模な緑地などを中心に、今も様々な生物がすんでいます。その中には、生息・生育環境の変化などの理由から、絶滅が危惧される生きものもいます。

そのため、本市では、名古屋市の野生動植物（11分類群：維管束植物・コケ植物・哺乳類・鳥類・は虫類・両生類・魚類・昆虫類・クモ類・カニ類・貝類）の生息・生育実態について調査を行いました。その調査結果を基に、現在、改訂版となる「名古屋版レッドリスト2015」と「レッドデータブックなごや2015」を作成中です（ウェブサイトに掲載します）。

調査の結果明らかになった、名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物について、その一部をご紹介します。

カニ類



ユビアカベンケイガニ

鋏脚（きょうきやく）の先が赤い小型のカニです。ヨシ原の中で生息し、干潟の高い場所や川堤に穴居します。庄内川、天白川の干潟・ヨシ原に生息していましたが、護岸工事等で河口干潟・ヨシ原が激減し、庄内川河口の右岸を除いてユビアカベンケイガニは消滅しました。

コケ植物



イボミズゴケ

丘陵地下部の湧水により涵養（かんよう）された湿地に生育している種です。本州中部以北を中心に分布している北方系種ですが、市内（千種区、守山区、緑区、天白区）にも生育しています。オオミズゴケとよく似た外観をしており、オオミズゴケと共に採取される恐れがあります。

哺乳類



ヒミズ

半地下性の小型のモグラ類です。市内北東部の山地から東部の緑地にかけて分布していますが、生息地は局所的で分断化しています。落葉層や腐植層に網目状のトンネルを掘り生活していますが、緑地の公園化などによって生息適地が減少し、市内での生息密度は低いと推測されます。



アカネズミ

市内東部地域と西部地域の広い範囲に分布しています。緑地やため池、河川、農地周辺の樹林地や草地が生息場所となっています。しかし市街化により生息地である緑被の面積は市全域で年々減少していて、生息地の消失や縮小、分断化は未だ進行中です。

魚類



カワバタモロコ

英名のゴールデンピーナスチャブが示すとおり、雄は黄金色に輝く婚姻色（こんいんしょく）を呈します。美しさ故に、乱獲されたり、増殖目的で放流され、遺伝子汚染の危険性も指摘される種です。これまで名古屋市内に生息しないと考えられてきましたが、今回の調査で確認されました。



トビハゼ

尾を使って泥面を素早く飛び跳ねて移動する、おもしろい魚です。昔は、名古屋港に流入する河川の河口域の泥干潟に広く分布していましたが、埋め立て等の開発により生息地が大幅に減少しています。

クモ類



トゲグモ

山地の樹間に垂直円網を張るクモで、体長雌6.0～8.0mm、雄3.0～4.0mmです。市内での観察例・採取例はありませんでしたが、2014年に昭和区八事山で市内初記録されました。県内での分布は少なく、市街部での分布は貴重です。



テジロハリゲコモリグモ

湿原に強く依存して生息する、徘徊性のクモです。開発にともなう湿原の減少や環境悪化で、近年激減しました。県内での分布は少なく、市内では守山区と天白区に生息しています。天白区八事天白溪湿地では絶滅しました。



カコウコモリグモ

成体は5～8月にかけて見られ、葦原（よしはら）内を素早く動き回ります。河口付近の内海に面した塩性葦原に生息するため、護岸工事や環境の悪化によって激減しています。県内では名古屋港の一部だけに分布しています。

貝類



ヌマガイ（淡水産）

文献調査とDNA分析により、ドブガイはヌマガイとタガイに分けられました。イシガイ科二枚貝は、河川の下流域や平野部の用水路などの、流れが緩やかな水質の良い砂泥底の所に生息しています。市内ではこのような環境の改修や汚染が進み、グロキジウム（幼生）の寄主となるヨシノボリなどが外来魚に捕食されるなどし、ヌマガイは激減しました。



オオケマイマイ（陸産）

溪流沿いの緩やかな斜面や石灰岩地帯に多く生息する山地性種で、殻の周縁に殻毛があります。市内には、オオケマイマイが生息できる自然度の高い雑木林は少なく、生息地は極めて限局的です。



ナラビオカミミガイ（汽水産・海産）

殻長9mm前後の貝です。2013年に名古屋で初めて発見されました。個体群は、近年になって新たに侵入した個体のみで形成されている可能性もあります。全国的にも、ナラビオカミミガイが定着できる環境は減少傾向にあり、都市化の進んだ名古屋市内にナラビオカミミガイの定着可能な環境がcaろうじて残されています。

希少種シンポジウム2015 「次代に引き継ぐなごやの貴重な生きものたち」を開催しました

調査から明らかになったなごやの希少種の現状について、多くの方にお伝えするため、2月28日（土）に鯉城ホールでシンポジウムを開催し、調査の報告を行いました。トピックスとして水辺の環境保全などについてお話しいただいた他、コケ植物からは、市内のミズゴケ類の分布状況等について、カニ類からは庄内川河口・ヨシ原とふ頭海岸に生息するカニについてご紹介いただくなど、レッドリストを担当している各分類群の専門家から、絶滅のおそれのある種の現状についてお話しいただきました。



なごや生物多様性保全活動協議会 平成26年度 なごや生きもの報告会 ～調査・保全活動について～

開催レポート

プログラム



午前の部：名古屋城の生きものたち

【司会】鉄崎幹人（アウトドア自然派タレント）
【パネラー】陸貝：川瀬基弘（愛知みずほ大学講師）、ヒメボタル：安田和代（名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち）、オニバス：中村肇（なごや生物多様性センター）、哺乳類など：野呂達哉（なごや生物多様性センター）
【コメンテーター】矢部隆（愛知学泉大学教授・なごや生物多様性センター長）
【スライドショー】名古屋城外堀と堀川で見られた生きものたち：酒井正二郎（市民調査員）

午後の部：なごやでの調査・保全活動

第1部 保全活動団体による発表
【司会】鉄崎幹人（アウトドア自然派タレント）
【発表】愛知守山自然の会、山崎川グリーンマップ、名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち
第2部 なごや生物多様性保全活動協議会事業についての発表
【司会】岡野隆裕（協議会副会長）
【発表】動物調査と保全対策：野呂達哉（なごや生物多様性センター）、水辺の生きもの調査：榊原靖（名古屋環境科学調査センター）、水生植物部会の活動：小菅崇之（水生植物部会副会長）、生物情報モニタリングデータベース：橋本啓史（名城大学農学部生物環境科学科助教）、オオキンケイギクの駆除実験：野中賢輔（なごや外来種を考える会）、ムシヤクツツバメシジミの発生と駆除対策：岡野隆裕（名古屋昆虫同好会）、なごや生きもの一斉調査2014（アメリカザリガニと甲殻類）：石原則義（愛知守山自然の会）・寺本匡寛（なごや生物多様性センター）（敬称略）

平成27年2月1日（日）、なごや生物多様性保全活動協議会（以下「協議会」）主催で「なごや生きもの報告会 ～調査・保全活動について～」を中区役所ホールで開催しました。この報告会では名古屋城の生きものの現状報告、協議会会員団体の活動報告、協議会の部会活動等が発表され、200名の方が来場されました。

【午前の部：名古屋城の生きものたち】

午前の部は、これまで調査・研究・保全に関わってきた市民や専門家から、名古屋城やその周辺に生息・生育する生きものの現状についての報告がありました。緑地の少ない名古屋市において名古屋城とその周辺は、まとまった緑が残る貴重な場所であり、まだまだ多様な生きものが生息していることがわかりました。「スライドショー」では、いきいきとした生きものの写真や動画が発表され、会場の目は釘付けになりました。

質疑応答の際、会場から「いろいろな問題はあろうが外来種も生物多様性の1つではないか」との意見に、矢部センター長が「Biodiversity（生物多様性）のdiversity（多様性）の語源は、『分かれる』という意味で、生物の種が分岐・分化して進化する。そこに外来種は含まない。人為的に運ばれるものが多い今、人間が招いていることは人間がくい止めないといけない。諦めるのではなく、

できることから考えることが必要」と答えたのが印象的でした。最後に司会の鉄崎さんが「大都会とは言え、こうして生きものがいる。見守る市民がいる。その活動をデータに残すことが大切。データが未来を守ると言っても過言ではない。」と市民が地道に記録した情報をデータとして残すことの大切さを話されました。

【午後の部：なごやでの調査・保全活動】

午後の第1部は、協議会会員団体の内、3団体が日ごろの活動の様子や成果などについて発表。「愛知守山自然の会」が小幡緑地の湿地とマメナシの保全について、「山崎川グリーンマップ」が山崎川の外来種の防除と地域の方々からお話を伺った成果について、「名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち」が夜間の護国神社に1,000人集まった今年度の観察会の様子等について報告しました。

第2部は、協議会の5つの部会活動と、2つの調査保全活動についての報告がされました（上記プログラム参照）。全体的に外来種の問題が目立ち、今後ますます大きな課題となるように感じました。

最後は、協議会の滝川会長から「最初の3年間はため池に注目してやってきた、次の3年間は外来種の駆除ということやってきた、来年度からはぜひとも調査と保全をやり、そこで多くの人たち、市民や専門家、子どもたちにも出会ってほしい」との言葉で報告会は幕を閉じました。

市民の見守る目の大切さを感じた報告会。私たちも、このなごやの自然の一部です。同じ場所で暮らす他の生きものに少しでも関心を持ち、見守っていくことが私たち自身にとっても住みやすいなごやのまちづくりとなるのではないのでしょうか。

（生物多様性市民協働推進員 茶原 真佐子）

なごや生物多様性保全活動協議会とは 市民・専門家・行政からなる協働組織。平成27年3月現在、34の団体会員と22人の個人会員で構成。なごやの生物とその生息・生育環境について調査・保全活動を実施しています。事務局はなごや生物多様性センター。このニュースレターでは「協議会」と略して表記することがあります。